

令和7年度 第1学年入学者選抜 試験問題

学校推薦型選抜

小 論 文

注 意 事 項

1. 「はじめ」の合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
2. 問題用紙は表紙を除いて1枚、解答用紙は2枚、下書用紙は2枚です。
「はじめ」の合図があってから確かめなさい。
3. 監督者の指示に従い、解答用紙に受験番号を記入しなさい。ただし、氏名を書いてはいけません。
4. 文字などの印刷に不鮮明なところがあった場合は、手をあげて監督者に知らせなさい。
5. 解答はすべて解答用紙に横書きで記入しなさい。ただし、「総得点欄」「採点欄」に記入してはいけません。
6. 試験終了後、配付された問題用紙、下書用紙は持ち帰りなさい。

問題用紙

(小論文)

以下の文章は、ノーベル賞受賞者の赤崎勇先生の文章である。これを読み、問1および問2に答えなさい。

若い方たちに、次のメッセージを送りたいと思います。これは2012年10月の名古屋大学レクチャーのとき、斎藤進先生から「講演の中でぜひ若い人へのメッセージを」とのご要望をいただき、お話ししたことです。

1. 夢（やりたいこと、目標）をもとう。
2. 失敗を恐れなない。
3. やろうと決めたことは、最後まであきらめない。
4. 疑問（好奇心）を大切にす。
5. 輪（仲間、友達）を広げる。

これらは、これまで述べてきたように、私自身が実践しようとして心掛けてきたことでもあります。これらを、全部でなくてもいいので、どれかひとつでも2つでも実践できるとよいと思います。

3番目の「最後まであきらめない」気持ちについては、大龍小学校のもうひとつの校訓「奮励努力」が関係していると思います。この校訓は、「不撓不屈」とも表現されていました。そして、小学校の担任の森武英先生が、ことあるごとに「カンツケ」（鹿児島の方言で「噛みつけ」、つまり「歯をくいしばって最後まで投げ出すな）」とおっしゃっていたことが、^{じだ}耳朶に残っています。今でもときどき、この言葉が先生の表情とともによみがえってきます。また、5番目に関してつけ加えますと、幸いにして、小学校、中学校、高校、大学、それから社会人になってからも、良師・益友に恵まれました。これは私にとって、何ものにもかえがたい宝です。

そして、恩師や先達はもとより、職場の若い人からも私は多くのことを学びました。私のこれまでの研究生活の折々に、一緒に仕事をした仲間や教え子たちが、皆それぞれの立場で電子立国日本に貢献し、さらに、青色LEDの研究・開発と発展に貢献していることを、私はとても誇りに思っています。

（出典：赤崎 勇（2013）『青い光に魅せられて：青色LED開発物語』日本経済新聞出版社、238-239 ページより引用。元は縦書きで漢数字を用いているが、英数字に改編した。）

問1 上述の1～5の項目のうち、大学生活においてあなたが最も大切にしたいことを1つ選び、そのように考える理由を200～300字で説明せよ。ただし、解答用紙の「選択した項目」の番号に○印を付けよ。

問2 上述の1～5の項目以外^{以外}のことで、普段から自分が最も心がけていることについてその理由とともに200～300字で説明せよ。